

財務省からのクリスマスプレゼント ～2023年の音楽活動を振り返って～

ハツ尾 順一

12月25日（月）の朝、清文社の編集部のTさんから「財務省のメルマをみました」と題する以下のメールをスマートフォンで受け取った。

「今朝、財務省のメルマ見て驚きました！巻頭に先生と税金一座のことが書いてあって社内騒然です。YouTubeのリンクまで貼ってあって、見ている人は見ているのだなぁと。流石ハツ尾先生です。（嬉しきの勢いでメールしてしまいました。すみません。）」

Tさんは、私の音楽活動の自称GMで、ライブの開催の時には、いつも助けてもらっている。寝起きの突然のメールで「財務省のメルマ」とは、一体何であるかということを理解するまでに、しばし時を要した。

「財務省のメルマ」が「財務省のメールマガジン」であることを悟り、早々にGoogleで検索すると、直ちにスマートフォンの画面に表れる。

税制メールマガジンで、第169号（令和5年12月22日配信）が「New」と示され、現時点で最も新しいメールということらしい。その目次は次のようになっている。

- 1 はじめに
- 2 税制をめぐる最近の動き
- 3 国際課税への誘い～ポストBEPSプロジェクトの新潮流（最終回）
- 4 今月は何税の月？「12月：税制改正大綱」
- 5 編集後記

上記の「はじめに」は、三つのパラグラフから成り立っている。そして、三つ目のパラグラフに、以下の文章が載っている。

そんな2023年も残りあと僅か。大晦日の紅白歌合戦が待ち遠しいところですが、最近、私はハツ尾順一・大阪学院大学教授がYouTubeに公開された税金に関する歌をよく聴いております。「税金～そして人生～」「消費税よ、どこへ行く」「源泉徴収恨み節」等、どれも名曲揃いです。税制に関心のある皆様にも、是非、一度ご視聴頂きつつ、良い年末をお過ごし頂ければ幸いです。

財務省主税局総務課 企画官
境吉隆

この文章を最初に読んだとき、主税局の企画官が、ひょっとすると、私に紅白歌合戦に出場することを勧奨（国通法74の11③）しているのではないかと、勝手に考えたのだが、よくよく読んでみると、そうでないことは明らか。しかし、それにしても私の「税金のうた」を名曲揃いであると、財務省・主税局のメールマガジンで絶賛していることは間違いないようである。

更に、ご丁寧なことに「ハツ尾順一と税金一座」として、YouTubeのリンクサイトが財務省のメールマガジンに貼り付けられている。これだと、きっと多くの人が聴いてくれるのではないかと、密かに期待する。

そこで、公認会計士・税理士の方々に、是非、財務省の税制メールマガジンで、第169号（令和5年12月22日配信）をご覧くださいとお願いする次第である。

近畿C.P.A.ニュースで何度も私のCDリリースを紹介（宣伝）しているが、まさか、2023年のクリスマスの時期に、絶大な国家権力の中枢である財務省の主税局からこのような「暖かいメッセージ」をプレゼントしていただけるとは青天の霹靂である。

2023年を振り返ると、私の音楽活動には大きな変化があった。その一つが、9月9日の朝日新聞の夕刊の一面に、「税金を知らう・教授は歌う」と題して、私の音楽活動が紹介されたことである。その前の9月6日の朝日新聞デジタル版にも「ハツ尾順一と税金一座」の記事が掲載されている。

ところで2023年9月9日に、私はちょうど熊本にいたのであるが、ホテルで朝日新聞の夕刊を求めると、ホテルの受付嬢に「このホテルには朝日新聞の夕刊はありません」と冷たく言われた。更に「どこに行けば夕刊を買うことができるのか？」と尋ねると、「九州地区で朝日新聞の夕刊は発行していません」とハッキリと告げられる。天下の朝日新聞をペーパーで求めることができないとは…何とも情けないと思い、中日新聞で記者をしていた小学校の同級生にメールをすると、大都会の名古屋でも既に朝日新聞の夕刊は発行していないという。新聞業界もデジタル化が進み、若者はほとんど新聞を読まず、紙の新聞記事は衰退の一途らしい。因みに、朝日新聞の夕刊は、東京地区と関西地区のみ、ほぼそと発行しているらしい。現在の朝日新聞の発行部数もピーク時の800万部から400万部に減少しているらしい。新聞業界も衰退（冬の時代から氷河期へ移行）しつつある。中日新聞の友人は、「今思えば、われわれの時代は良かったと思う…これからは大変だ」などと呟いていた。因みに、既に退職している彼は、昭和25年

生まれである。

そんなわけで、ひょんなことから、衰退する新聞業界を垣間見たのであるが、ともあれ、多くの知人から「夕刊の一面を見ました」など、電話や年賀状で知らせて貰った。これらの人々は、朝日新聞の購読者と推測されるが、私の知人の中では、比較的「高齢者、かつ、教養人」と思われる人物である。

もう一つの大きな音楽活動は、12月に「音楽でわかる税金百科」という歌集の発行である（写真参照）。「聞くだけで税金の偏差値がアップする」をコンセプトに、年2曲を10年間続けた集大成である。この歌集の「はじめに」では、次のような挨拶をしている。

このアルバムは、最初にCDをリリースした2014年から2023年までの10年間の「税金の歌」を収録したものである。

1年間に2曲ずつリリースしていますので、20曲が出来上がりました。この20曲を全部聴くと、おおよそ100分（各曲約5分）の時間を要します。そして、この20曲で、税目のほぼ全てをカバーしていますから、この「税金の歌」を歌うと、税金の偏差値がアップすることは間違いないありません。

楽譜には、簡単なギターコードが付けられていますので、弾き語りながら、「税金の歌」を歌い、税金の勉強を

して貰えたらと考えています。

また、本楽曲はすべてYouTubeサイトで聴くことができ、さらにカラオケのジョイスOUND (JOYSOUND) で歌うこともできます。

なお、本誌の楽譜については「税金一座」のメンバーの古屋創太郎氏（ギター）が監修をしています。

この「税金の歌」が広く歌われ、税金の普及や租税教育などにささやかな貢献ができたならば、幸いです。

この「はじめに」の最後の四行を読んだら、私の「税金の歌」同様に、財務省・主税局の企画官は、きっと、涙を流して喜んでくれるのではないかなと思う。

2024年の新年を迎え、これからも気力と体力が続く限り、「税金の歌」をテーマに創作活動を続けていきたいと願っている。

